

ぼえか と ぷうか の だいぼうけん

- ① ぼえかとぷうかは、仲よし姉妹。夏休みにおじいちゃんとおばあちゃんの家へ遊びにいきました
- ② おじいちゃんとおばあちゃんの家に行く、愛犬テディーが、わんわんほえてむかえてくれます。テディーは、ぼえかとぷうかといっしょにあそぼう、あそぼうといいます。
- ③ ぼえかとぷうかは、ほんとうは、テディーのこと、ちょっとこわいなあと感じていましたが、しんぞうおじちゃんが、だいじょうぶ、だいじょうぶというので、ちょっと、さわってみようとおもいました。
- ④ テディーがいるのは、大きな緑の絵があるたたみのへやでした。大きな緑の絵には、どこかの島と海がえがかれてました。ぼえかとぷうかは、たたみの部屋にはいって、テディーとあそびました。おもちゃをぼーんとなげると、テディーはとりにいって、こっちへもってきてくれます。テディーは、とってもかしこいわんちゃんです。
- ⑤ ぼえかはたのしくなり、おもいきりテディーがすきなおもちゃをなげました。あっ、いけない、へんなほうこうへとんでいっちゃった。大きな緑の絵のほうだ。テディーも、おもちゃをとりにいこうとしています。ぷうかも、ひろいに行きます。ああ、絵にあたってっ。だめ！ がちゃがちゃがっちゃん！
- ⑥ テディーは、おもちゃをキャッチしていました。ぷうかも、テディーのよこにたおれこんでいました。ぼえかもおってきていました。ああ、やっぱり、テディーはすごいね。よかったね。あれ、絵は？ どこ？ あれ、しんぞうおじちゃんは？ あれ、なんか、ここは森のなかにいるみたいだけど。えー、ここは絵のなかにはいっちゃたんじゃないの？ ぼえかは、そうおもいました。どうしよう、どうしよう。テディーも、どっかへいってしまいました。ぼえかとぷうかはふたりぼっちになってしまいました。もりのなかで、ふたりはさびしくなると、なきはじめました。おかーさん、おとーさん、おじいちゃん、おばあちゃん、しんぞうおじちゃん！ 来て～！ だれもきてくれません。
- ⑦ そうすると、もりのしげみから、ひとりのおとこのこがでてきました。

「やあ、こんにちは。ぼくは、パケット。そんなに泣かないで、ここはね。パラオという場所。ここは美しい島と、きれいな海、そして宝石のような星があるところだよ。いっしょにあそぼうよ」

ぼえか、ぷうか、パケットは、追いかけてっこをしてあそびました。森の中、楽しい、楽しい時間でした。
- ⑧ ぷうかは、走っていると、転んでしまいました。すると、そこに大きな穴ぼこがあって、その中をころころ、ころころと、転がっていってしまいました。気がつくと、きれいなきれいな海にでていました。ぷうかは、ぷかぷかとうかんでいました。おさかなさんも、よってきて、あそぼうっていています。ぷうかは、おあさかなさんと、うみのなかで、すーいすいと、楽しくあそびました。

- ⑨ そのころ、ぼえかとパケットは、ぷうかを探していました。どこにいったの？ ぷうか。出てきてよ！ ぼえかは、いまにもなきだしそうになっていました。でも、おねえちゃんだから、ひっしになかないようにしていました。はやく、ぷうかをさがして、おうちへかえりたいよって心の中でさけんでいました。そうすると、パケットはいいました。

「パラオの仙人にそうだんしよう！」

ぼえかは、パケットに案内してもらって、仙人にあいにいくことにしました。

- ⑩ 仙人は、しろいひげをはやしていました。

「ぷうかを見つけて、おうちへかえるためには、パラオの3つのたからをもちかえらなければならない。それは、はまべのどうくつ、山のほらあな、空に一番近いところにある。いきなさい。そして、たからをみつけなさい」といって、パラオの仙人はどこかへ行ってしまいました。

ぼえかは、それが、どこにあるのか、ぜんぜんしりませんでした。

- ⑪ でも、パケットは、なんだかしているようでした。

「ぼ、ぼく、ぼくはしているよ」

「はやく、いいなさいよ」

「ぼくは、おじいちゃんから、いろいろな島のはなしを教えてもらっているから、いろいろなことをしているよ。でも、おじいちゃんが、いっちゃだめって」

もじもじしながら、パケットはいいました。

「わたしは、ぷうかをつれてかえりたいの！ いま、すぐにいいなさい」

ぼえかはイライラしています。

「わかったよ。じゃあ、ぼくについてきてよ。まずは、はまべのどうくつへいこう。

そこへは、川をくぐればはやくいけるよ」

「じゃあ、いきましょ」

- ⑫ パケットとぼえかは、かわにたどりつき、そのまま、かわにじゃぼんとはいりました。かわの流れは、はげしく、どんどん海のほうへながされていきます。あ～、おぼれる～。海までながされて、いきました。そうすると、そこで、楽しそうに、ぷうかが、さかなさんと楽しそうにあそんでいるのをみつけました。

「ぷうか～！ どこへいったの、しんぱいしたんだから、おねえちゃんと、おうちにかえりましょ」

「わかった。おねえちゃん、かえる。むかえにきてくれて、ありがとう！」

ぼえかとぷうかとパケットは、はまべのどうくつをみつけました。

そこには、ひかりかがやくほど、まばゆい、ゆうきのつぼがありました。さんにはたからの1つをてにいれました。

- ⑬ つぎは、やまのほらあなへむかいました。きゅうなさかみちをのぼっていかなければなりません。ぱけっとは、しんどうそうだったので、ぼえかとぷうかは、パケットのうでをひっぱりながら、きょうりょくしてのぼりました。そして、やまのほらあなにつきました。そうすると、ほらあなのなかから、がおー、がおーというおそろしい、けだもののなきごえがきこえたのです。

- ⑭ あなからでてきた、けだものが三人におそいかかってきました。ぽえかとぷうかも、もう、こわくて、こわくて、うごくこともできませんでした。
「わん、わん、わん、わん、がぶー」
テディが、もりのしげみからとつぜんできて、かいじゅうとたたかっています。
「あっ！ テディ、わたしたちを助けにきてくれたんだね、テディ、がんばって！」
テディは、けだもののじゃくてんである、ひざにかみつきました。そうすると、けだものは、にげさってしまったのです。
「テディ、ありがとー！ よくやってくれたね」
みんなおよろこびです。そして、ほらあなのなかを見てみると、しんねんのふでがありました。三人は、2つめのたからをてにいれました。
- ⑮ つぎは、空にいちばんちかい山のちょうじょうにぽえか、ぷうか、パケット、テディはむかいました。さんちょうは、風がびゅーびゅーふいています。そこで、パケットがいました。
「おじいちゃんがね。いっていた。やまの上では、じゅもんを唱えれば、特別なことがおきるって」というと、大きな声でじゅもんをとねえた！
「ハンムラビ、ハンムラビ、バビロン、バビロン、ソロモンのつえっ！」
そうすると、空から、ぼうのようなものがふってきました。それを、ぽえかは、ひろいにきました。空とぶじゅつのまきもの、とかいてありました。ぽえかは、まきものをひらいて、なかを読みました。そこには、こうかかれてありました。
「おおかせがふいたとき、目をつぶって、ジャンプ！」
ぽえかとぷうかは、きっと、そうすれば、おうちに帰れるんだよ、と思いました。
ぽえか、ぷうか、テディは、そのとおりにしました。そうすると、体がきゅうにかるくなったかと思うと、空のかなたのほうへとばされていったいので。
びゅー、びゅー、びゅー！ あ〜！
- ⑯ ぽえかとぷうかとテディは、でんぐりかえしをしながら、たたみのへやにでてきました。どかっ！ だだだだあ〜！
「イタタタタア〜」
ちょうど、へやにはいつてきた、しんぞうおじちゃんにぶちあたってしまいました。しんぞうおじちゃんは、おどろいてました。
「きゅうにでてきて、びっくりしたな、もお〜。あれ、でも、ぽえかもぷうかも、大きくなったみたいだな。なんか、おねえちゃんになってみたいだ」
「そうよ。この絵の中に入って、3つのたからをみつけたのだよ！ ね！ ぷうか！」
「テディもかいじゅうをやっつけたんだよ。ね！ おねえちゃん」
「ふたりとも、どうかしちゃったんじゃないか？ 絵の中には入れないんだよ。ゆめでもみてたんじゃないのか？」
しんぞうおじちゃんは、ぜんぜん、しんじてくれませんでした。
「おじいちゃんとおばんちゃんが、ケーキをじゅんびしてくれているから、食べにこう！」
ぽえかとぽおかは、よろこんでケーキをたべにいきました。

おわり